

平成20年度 入学宣誓式 学長告辞

本日ここに入学式を迎えた学部706名、博士前期課程432名、博士後期課程51名の新入生の皆さんに対し、京都工芸繊維大学を代表して心から歓迎の意を表します。また、皆さんをこれまで様々な形で支えてこられ、今日の入学式をともに祝うために参集されたご家族の方々に対しても祝意を表したいと思います。

今日、皆さんの若い新しい力を迎え入れることができたことは、京都工芸繊維大学にとって大きな喜びであります。

皆さんは、本学に入学するにあたっては様々な目的を持っておられることと思います。そのような皆さんに、まず、本学が何を目指して教育研究を行っているかについて紹介させていただきたいと思います。本学の教育研究目標は、基本理念に謳っております。

京都工芸繊維大学の特色は、伝統文化の源である古都の風土の中で、知と美と技を探究する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきたことにあります。その歴史を踏まえ、基本理念では、本学が学問の府として新しい未来を切り拓き、社会的な要請に応えて更なる発展をする礎として3つの目標を掲げています。

第一の目標は、

「人類の存在が他の生命体とそれらを取りまく環境によって支えられていることを深く認識し、人間と自然の調和を目指す」ことです。

第二の目標は、「人間の感性と知性が響き合うことこそが、新たな活動への礎となることを深く認識し、知と美の融合を目指す」ことです。

第三の目標は、

「社会に福祉と安寧をもたらす技術の必要性を深く認識し、豊かな人間性と高い倫理性に基づく技術の創造を目指す」ことです。

本学に入学された皆さんは、基本理念に謳っているこれら3つの目標をよく理解し、研鑽を積んで頂きたいと思います。

本日は、この基本理念の背景にある教育指針の一つについてお話したいと思います。それは、本学が教養、リベラルアーツを重視した教育体制をとっていることです。現代は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代であると言われています。

「知識基盤社会」については、文部科学省にある中央教育審議会の平成17年の答申「わが国の高等教育の将来像」で、その特質について次のように述べられていま

す。まず、第一は、知識には国境がなく、グローバル化が進むことです。第二は、知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれることです。第三は、知識の進展は旧来の考え方、すなわちパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要となることです。第四は、社会活動に性別や年齢を問わず参画することが促進されることです。知識基盤社会においては、新たな知の創造・継承・活用が社会の発展の基盤となります。特に人々の知的活動・創造力が最大の資源である日本のような国にとっては、優れた人材の養成と科学技術の振興が社会発展に不可欠であり、大学教育にその役割が期待されているのです。

大学教育に求められていることの第一は、先見性・創造性・独創性に富み、卓越した指導的人材を幅広い分野で養成・確保することであります。第二は、専攻分野についての専門性を有するだけでなく、幅広い教養を身につけ、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは社会を改善していく資質を有する人材の育成であります。

知識が日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれること、および、知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要となる、このような知識基盤社会を生きてゆく皆さんにとっては、リベラルアーツの涵養は極めて重要であります。

リベラルアーツとは、古代ギリシアに端を発し、ヨーロッパ中世の大学に始まるリベラルアーツの科目群の伝統を受け継いだ教育を示す言葉です。「リベラル」とは、気まぐれな先入観や、狭い踏みならされた道から自己を解放する自由な心のことで、「奴隷からの自由」「肉体労働からの自由」「実用からの自由」という意味です。アーツとは、人間のもつ機能の遂行に関係している諸々の技能という意味です。そして、リベラルアーツは、特に論理的な思考に重点がおかれている学問、教育の分野を示します。ギリシャ・ローマ時代からルネッサンスにかけてのリベラルアーツ、すなわち、自由七科は、文法、修辞学、論理学、代数、幾何学、天文学、音楽を指しますが、現代では、基礎科学分野の領域を含めてリベラルアーツとして定義しています。

現代の科学技術文明は、数学、物理学、化学、生物学といった基礎的学問分野に支えられて発展してきました。これらの基礎科学分野の多くの研究者達は、直接の実用を考慮せず、「面白い」あるいは「自然をより深く理解したい」という意識で研究を行っており、これは、まさにリベラルアーツの思想を直接受け継いだものです。基礎科学が現代の科学技術の進展をもたらしたことは、一種のパラドックスです。なぜならば、「実用からの自由」をかかげているリベラルアーツが、結果的には多大の実用効果をもたらしてきたのです。リベラルアーツを学ぶことは、「論理的思考能力」「科学的思考能力」「創造的思考能力」を身につけることであり、仮に、大学で学んだ知識そのものが将来直接的には役に立たなかったとしても、思考能力を自分のものとすることができるのです。

リベラルアーツを学ぶことの重要性は、例えば次のような事実によく現れています。日本は、ハードウェアには強いが、ソフトウェアには弱いということがよく指摘されます。実際に、ソフトウェアの分野では、日本はアメリカに比べて遅れているといわれています。また、最近ではインドにも遅れをとっているといわれます。アメリカやインドでは、数学や計算機科学の素養がある技術者や研究者によってソフトウェアの基本設計が行われているために、非常に質の高いソフトウェアが開発されているといわれます。例えばそれは、世界中のコンピュータの基本ソフトとして利用されている UNIX であり、また、UNIX を真似た WINDOWS です。UNIX は 1970 年 AT&T (American Telephone and Telegraph Company) の Bell 研究所で開発されました。Dennis M. Ritchie 博士は、同僚の Ken Thompson 博士とともに、たった 2 人で UNIX の開発を始めたことが知られています。そしてそれは、他の重要なソフトウェアの多くがそうであるように、Bell 研究所の中の正規のプロジェクトとしてではなく、個人のいわば趣味的な活動を起源としているのです。自分が使うものを自分が使いたいように自分で作るという、最も基本的なものづくりの考え方によって生み出されたものなのです。この 2 人は、UNIX 開発の功績によって ACM Turing 賞をはじめ IEEE の Emanuel R. Piore 賞など、数々の賞を受賞しています。ACM Turing 賞は、米コンピュータ学会 (Association for Computing Machinery) が授与する計算機科学の分野で最も権威ある賞で、英国の数学者 Alan M. Turing の名前にちなんでおり、「コンピュータ業界のノーベル賞」と言われています。Ritchie 博士と Thompson 博士によって開発された UNIX は、高度な論理的整合性をもって設計されたソフトウェアであり、長期にわたって信頼を持って使用されることになりました。UNIX の優れた特徴は、多くの OS (オペレーティング・システム) に受け継がれ、また Linux などによってオープンソフトウェアの環境が実現されていることは、みなさんをご存知のことと思います。UNIX におけるシステムの開発にあつての発想の根底に常にリベラルアーツの思想があるのです。これに対して、日本におけるソフトウェアの開発は、「論理的整合性」よりも、「当面キチンと動けばよい」という発想に陥りがちであるといわれます。目先の実用を目指してしまい、「実用から自由」になって「論理的整合」を目指すという視点がおろそかになってしまうのです。リベラルアーツでは、ほんの少しの論理的な欠陥も許さない厳格性を求めますので、論理的に厳格な整合性の高いシステムの構築が可能となります。論理的整合性の高いシステムは、破綻も少なくなりますので、安全性の高いシステムとなります。リベラルアーツを学ぶことにより、論理的に厳格なシステム構築の能力を身につけることができるのです。

大学および大学院のカリキュラムをみて、「将来直接役に立たない科目が、何故必修になっているのか？」という疑問をもつ学生諸君もいると思います。しかし、今すぐに役に立つと思われることは、将来にわたっての本当の実用には結びつかず、直接役に立たないように思われるリベラルアーツが、将来多大の恩恵を与える実用

を生むと考えると思います。日ごろ様々な通信機器や情報機器を使い慣れておられる皆さんが実感されているように、現代社会では、科学技術の進展は加速的に進んでいます。このような状況では、特に、今役立つ知識はすぐに古くなってしまいます。将来にわたって真に役立つのは、「実用から自由」な知識や技術であり、それを形作る論理的・科学的・創造的思考能力なのです。このような能力を身につけて頂くことが、本学の理念を実現することでもあります。

皆さんにとって大学は、第一義的には、学び、研究する場ではありますが、同時に、日常生活を通して、身体的、精神的に成長する場でもあります。専門分野の勉学や研究とともに、豊かな人間性を備えた社会人となるため、地域社会や文化活動にも積極的に関わっていただきたいと思います。また、そのような関わりの中で、真の友人を得ることができれば、皆さんにとって一生の宝となるでしょう。人生の中でも最も活動的で多感なこれからの学生生活が、皆さんにとって充実したものとなるよう祈っております。

皆さんの大学生活が実り多いものであることを期待し、お祝いの言葉と致します。

平成20年4月4日
京都工芸繊維大学長
江島 義道